前句笠付いかりつな

全

208
60

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

高橋蔵書

序

古のぬし せん

面り笠を帽子揚く
宗祇宗鑑の和歌脱
宿雲風月宗揚る
俳句者の達の謝言の
り方をそのやれば固
哀所の文ある時句を拾
為人の和歌も道

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

小歩を立て人に便を
なれうかも男の徒綱と
いつまで編笠とつるだ
とんとんとの

花居

鐵乃舟

俳諧いかりつな

あまとまや
船が見えぬちんだよめ
人うらあてる軒のちち

ぬぎすてる
ちうげんの小太しや首
高刺ちうのまてく人ん
為てよい初ねぎ

ぬぎさろう
をぶれのかけくく
歌乃ゑん毛ケハ
もぐらと

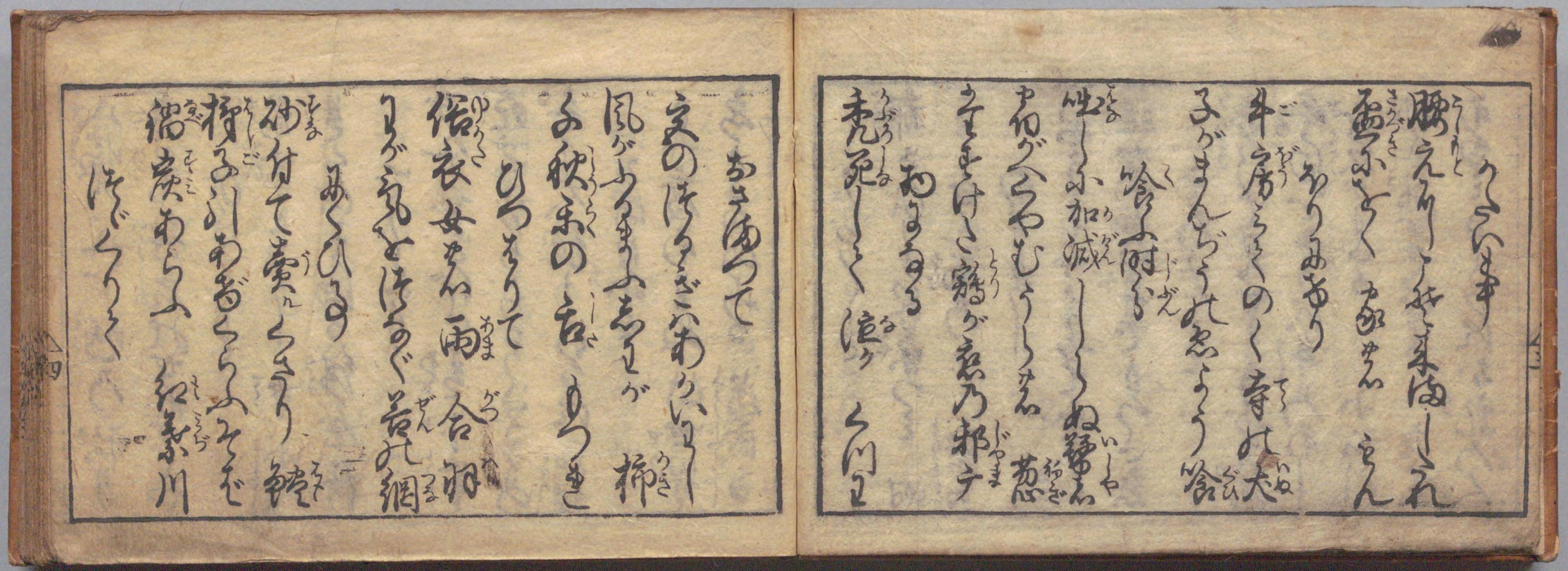
国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

しくさまぐくなかされ鑑
つまこさんたんそうし紙
めをく至
鑑山人をるそこご菊
屏のまゝそる後後の情
うやりふこ部をそびざれ
縁のそまぐ袖のふり
りけしひふ
紬屋がロイをはる
りけさうふ
酒を桐のよまくうるだ
まそんばそらふるのけんが

都そびし紀つこ河
そうせん箱乃 紀書
めうをし
ひうしがうして登二足
紀母の武尊でうつこ意
そうくと
歩行てんせくすぐる菊
帝国をそう牛乃あ
意次がうそる 小石川
げん気をんせる れ業
あ四そうしうしお乳乃人

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60
ガラス使用



うらいき

勝えりし紙海しれ

面ふとく　亦ん　ん

ありみあり

牛房うくのく寄れ大

ふがまんぐられ忘ようう　冷

冷ふ阿ぐ

性しふ加減しぬ籠ん　いしや

ねがへうむうしん　恋ぐ

ふをけさ寝ぐ京乃邦テ

わるる

売見しく泡ク　ん

おさめて

文のはうざいわいう

風ぐふうまふ走ぐ　柿

ふ秋糸の吉　ふき

ひうきて

俗衣女ん雨　合羽

うぐ京をはうぐ苦れ網

あくひる

砂付て黄ん　ん

持ふふ者ふふそ　ご

猪炭あふ　紀糸

ぢぐふく　川

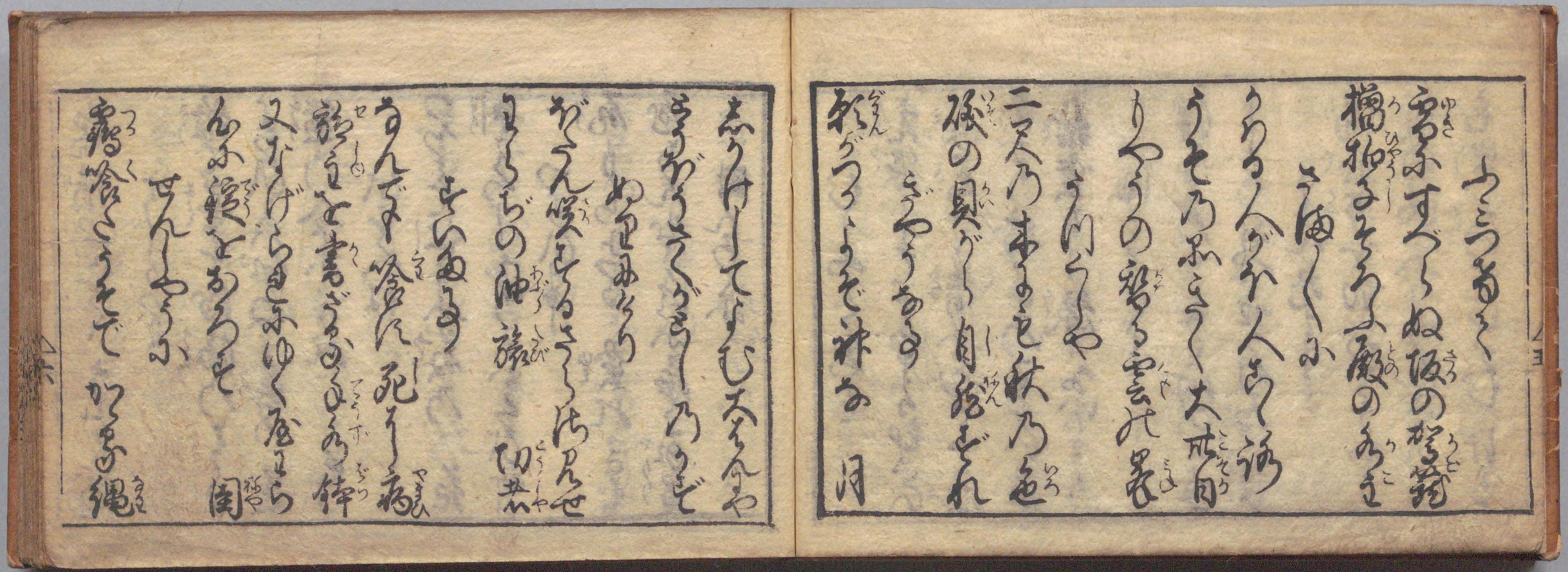
国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

八幡乃八と　幡乃　幡り
古寺　絵馬　ぜんぐ
びくくと
絵馬　寺　小坊
ちらびを　絵馬　絵
でうう
ぜんをとるげさまを　常
死でわらるうるを
年人　記　温
その日ふを
も一度　世界
ふくるのある　道成る

むしゃくゃと
元狸　狐
義　巻　狐
ゆうり　狐　ひ
新吹　緑
ゆくくと
ぼく度　ぐ　時
くるを　ぬ
まんぬう
湯出　切
稲の物　入
も出　義

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60
ガラス使用



ちうもく

雪ふすづらぬ仮の駕籠
櫓拍子そろふ殿のみこと

海くふ

うるうへが人ちう詠
うちもふちう大成用
りやうの碧る雲丸畏
うりうや

二人乃事ちも秋乃色
孫の見ぐし自給ぞれ

さうかう

教ぐうそ祈る月

あらけしてもむたんや
ちうぎうちうぐらし乃うぢ
ぬるみそり

ぎうん咲ちるさうち
ちうの油旗

ちいあう

うんで吟人死ち病
詠を書ざるひふ俳
又なげらるふゆく感ら
ふ縁をるうそ

せんちうふ

霜吟ちうそで かるる縄

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

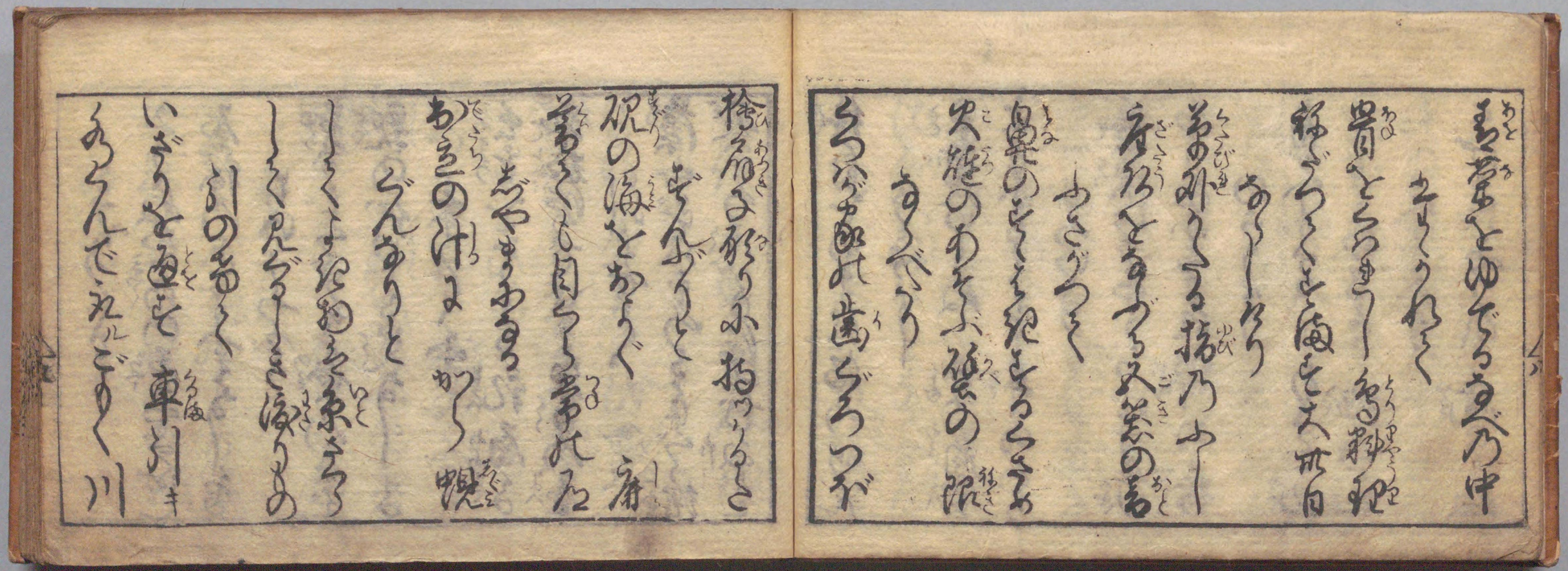
国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

とらばいく
はぬひ引やつ屋すす合羽
面をまりりりい古かるさ
ゑ〜ぬ〜り
宵の徒授て　なわぶく
ひ〜さ〜ぬ石ひ〜ぢ〜ま
ゐんぐさ〜りゐるぐ生れ
如中の産業菓子
豊作ふ
長崎紙よ打く味噌つを
法花ふ付ぐるるぐ女屋
京へやらまれ清英

絵具とのまた酒乃かん
ふ〜こ〜ら〜
長崎いしぬ　糸商賣
よ〜ふ〜ふ〜ふ〜と　耳のわう
ふ〜ふ〜ふ〜
藤浪のうちはす釘
ふ〜ひ〜ふ〜ふ〜ふ　禅の桜
のう〜う〜
有ぐ〜ふ〜ふ　あ〜ぐれ
ぐ〜ふ〜ぬ〜さ　地乃元
ふ〜ふ〜ふ〜
ふ〜ぎ〜ぬ〜び　焼ふう姫

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60
ガラス使用



国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

川柳

鳶乃初瓜
指の撥乃 殺うたり
又年玉集もしらひ
ちらぢらく
門流を移印れ
結ふ玉のこたう移乃祥
玉付を
都んよりひ 殘ん
紙屋の祥を 尾さ
出沼平小
行のるで 貴ル 葉乃 殺
ありつく 居ちあぐ

とそびく 鳴う 流乃 未
ものあるる 巻れ 有
さのどくや
寢乃 ふ 尾
紙 出く 織 毎
尾つ 数 ほ
ちつくて
さくれ 玉
ちりと
ひとせ ぐ ま れ
わんどり
月照れ 乃 氷 む

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

庵のゑ柳とりつゆ小ぢよ
うびくふ
そをゐうつる茶乃湯鉢哉
あくあで柳あづくるとこ
ろどころあり
鶯のねまを空ふかく
落ふかまり沢乃夷
ゆうのこゝろ
めでたい人とあがり
姫のつまふかる比丘尼
揚やとぬらる夷
ゆうぐさう

きんがとあるぬあ尾市
あがりてもあるく
あるくさう
茅の花ぐ切れ
花七草の　秋乃月
ゆうひさう
義ありぐもいれ
まぐさそよる見
ゆうけく
姫月ふぐつ義乃
まぐにあくうさ
ゆうあるく柳花水

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60
ガラス使用

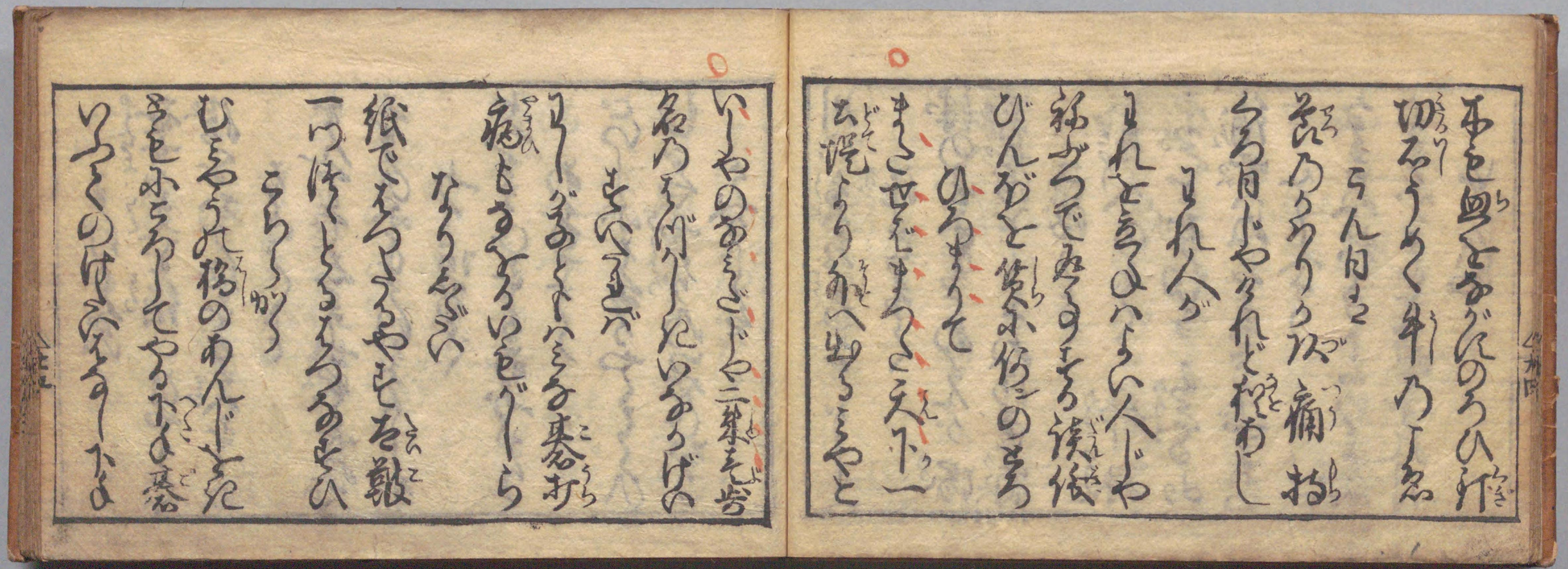
とよいう
業遊びの部よりづき
ものでうたを馬のは
うゆゆや
出入よりうるぐるれ
用の部ゆりづり作
うゆひく
猫也夫　あくゆ山
かどうがを　川出
歩ふ祝く
祝ものてうまゆ
うゆくと　ゆや

子とうれうる猫乃部
月見月乃　育児
あゆうり
部で屋おス古人ぐう
ものを扇る扇ト口
見付う
鰹ものり帳乃分結び
仏寺の屋古塗末履
ものがふめくゆ白髪
いちゆり
迎焼する猫義光
下戸の飲もと酒屋

見だてう
月人合くりも紐なまれ
知くぐ焼しさ惜愛業
雪よ河ちさ釈迦乃活
月のぐ小ちるよれよがび
ちりたつく
ちりざれのびる麻乃中
わくられく
色作のさん出ちも考
嫁がる洗て出ちうちち
ちぐく
絵の形ちる百人前

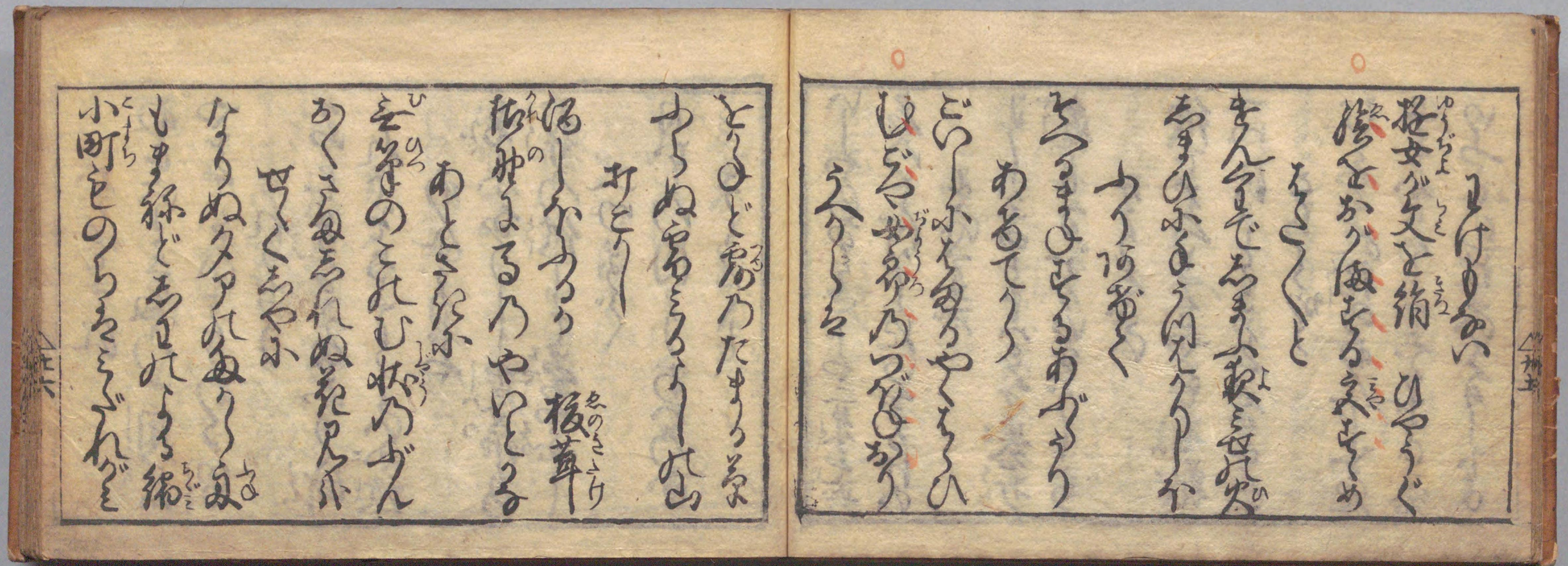
川の魚元毒ち　がし
流ちまく
沖の出ふちめえが咲
菖蒲ちくちねちも蔵塚
二階り
聲へのぐく　姉　妹
雪を雪切る　ちる山
絵実ぬちもぐちずち
ちくへり
ちぬ祇ちいと刻
ちふちちもぐれ月
いちひや

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60
ガラス使用



国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

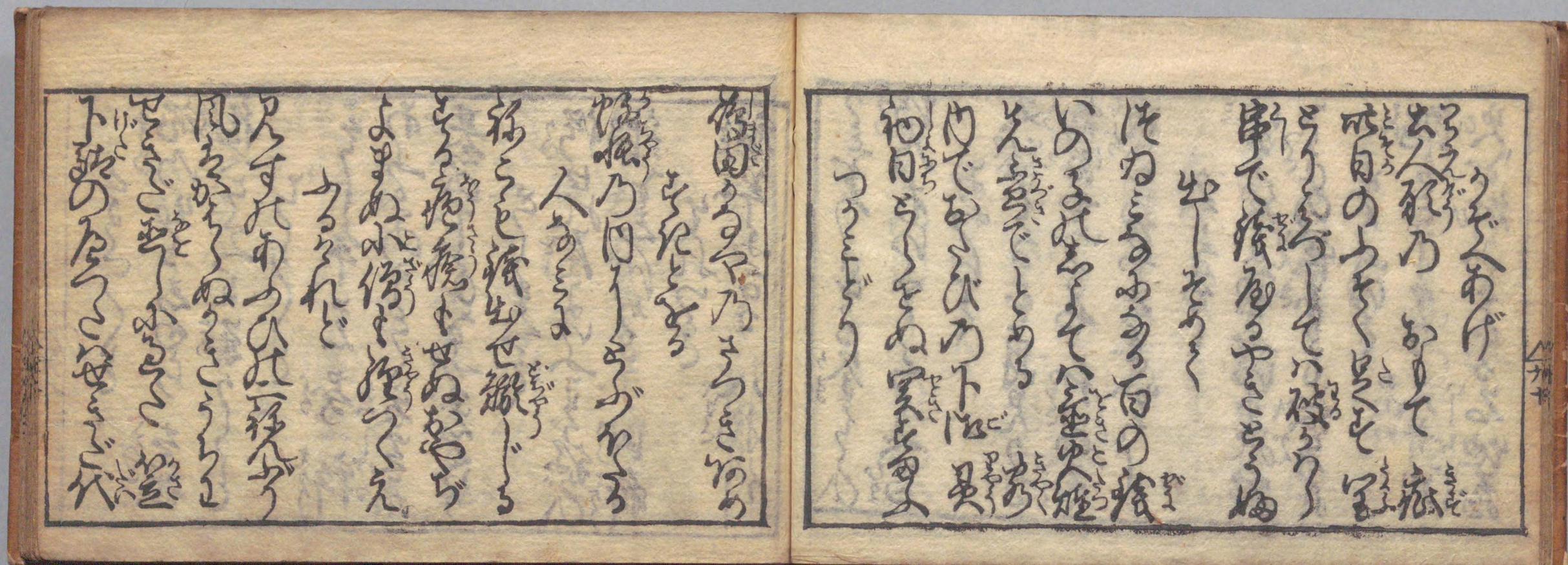


はけもの
姫女が文を絡　ひらぐ
ゆをかが風をる文をめ
ちちくと
きん今でちまう歌三四
ちまひふをうれしかり
ゆりの花く
ちるまゆをるあがう
わをてう
どうふをやちひ
ひどゆ女房ゆつがゆ
うゆうを

とりゆど鶴ゆたまりそう
ゆうぬちゆうしけ山
ゆとり
酒しかゆうり　板草
板鼎よるゆやいとる
あとちかゆ
玉箒のこれむ水ゆがん
あくさをちれぬ花ちゆ
ちくちゆ
なりぬクアれ毎ゆう文
もゆ絵どちれちる編
小町をのうちぐれが

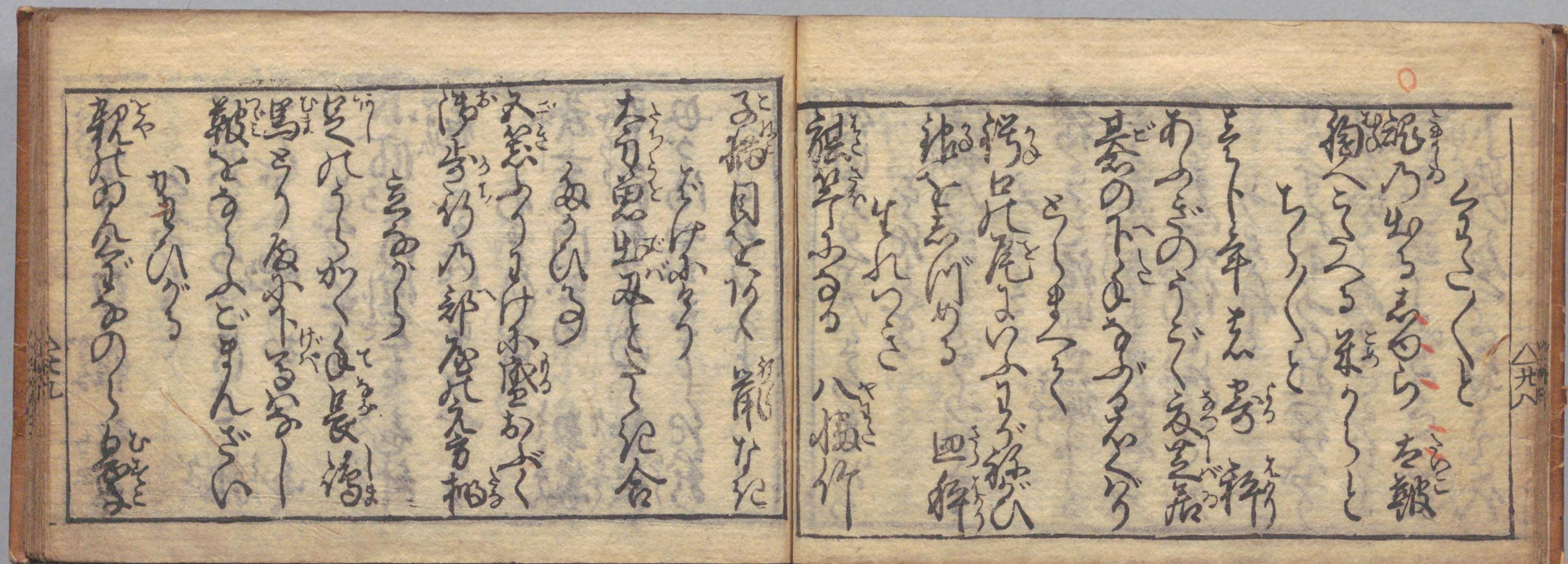
おがこまに
あをやとなる乃一周忌
やとをひとりある男
これはせう
あをとりなる乃あるく町
これをあらくしよいが紋
あんまりじや
帝ふるーー豊居
葬乃代して第乃世
二つまぐ
月乃内乃わい乃
さらくと

うををつくるる答
恨乃わいとくべる
おつけく
文桜をるを月見
初野やつるや行の
枝のあやくぎ
くすぐ
けをなるのぐせいよ
下よの張ぎも被
とりつく
縄をとーとり大井川
火を行かとる石地



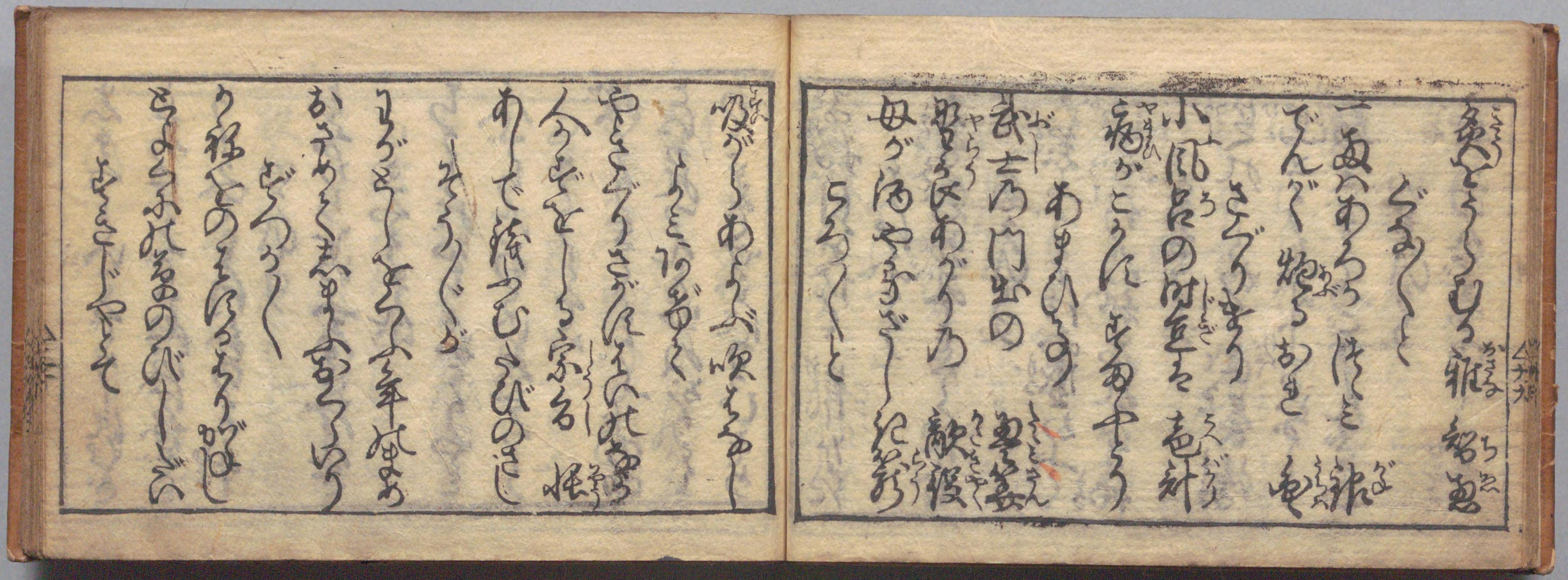
国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用



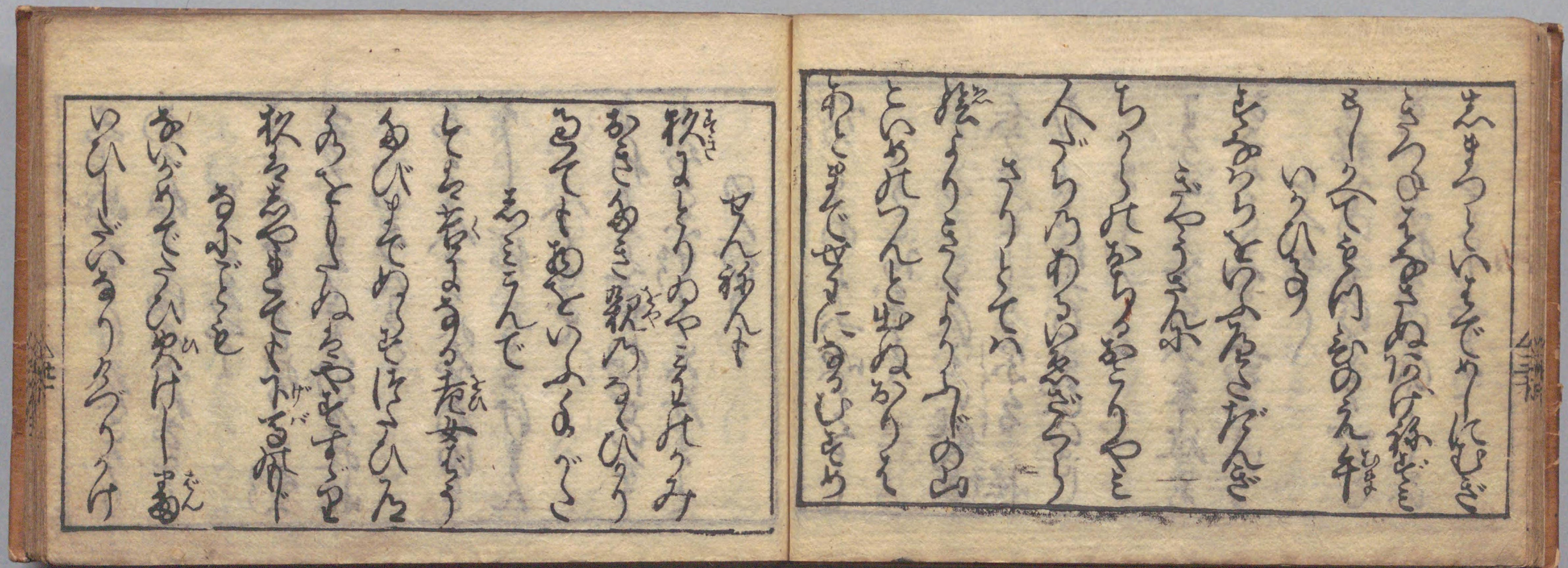
国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用



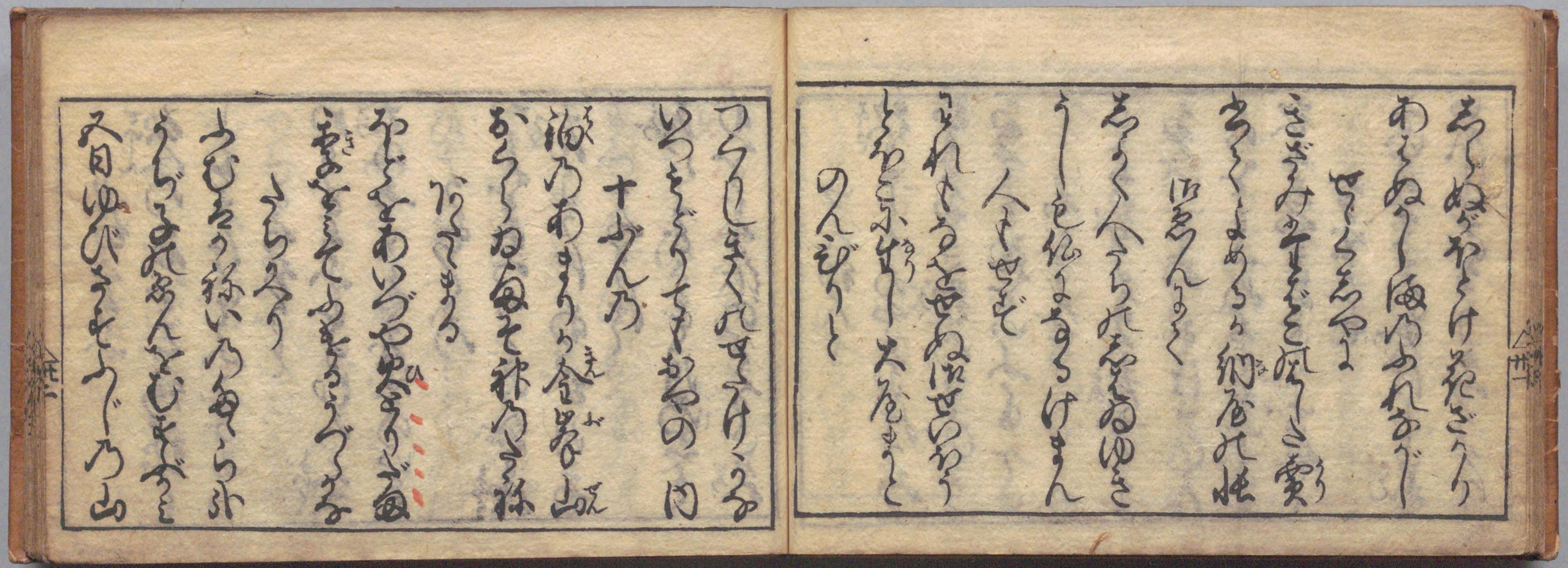
国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用



国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用



国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

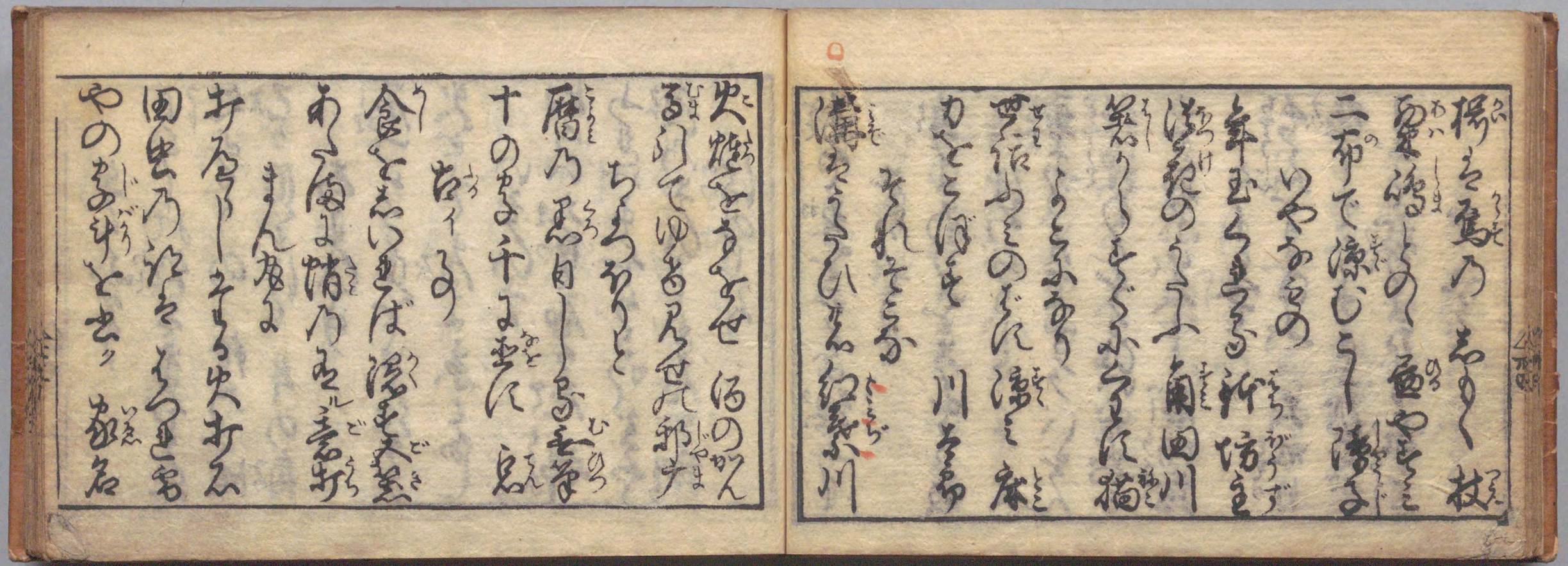
ガラス使用

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

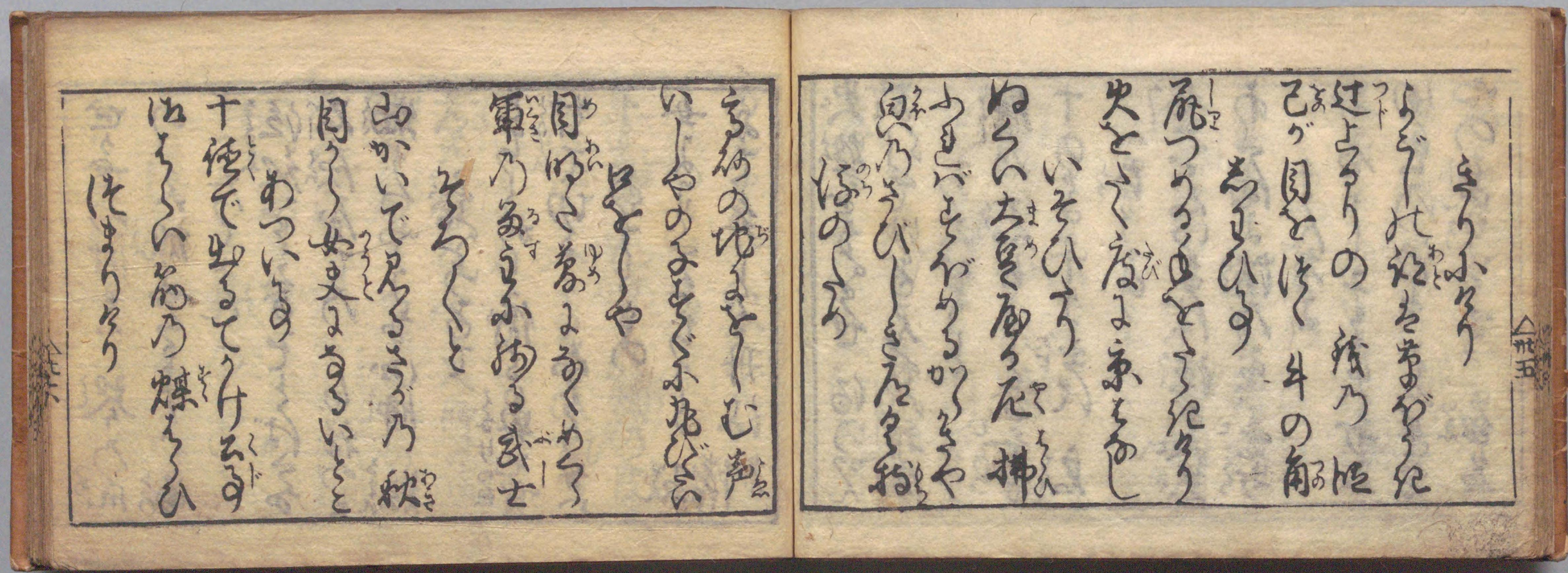
国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用



国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用



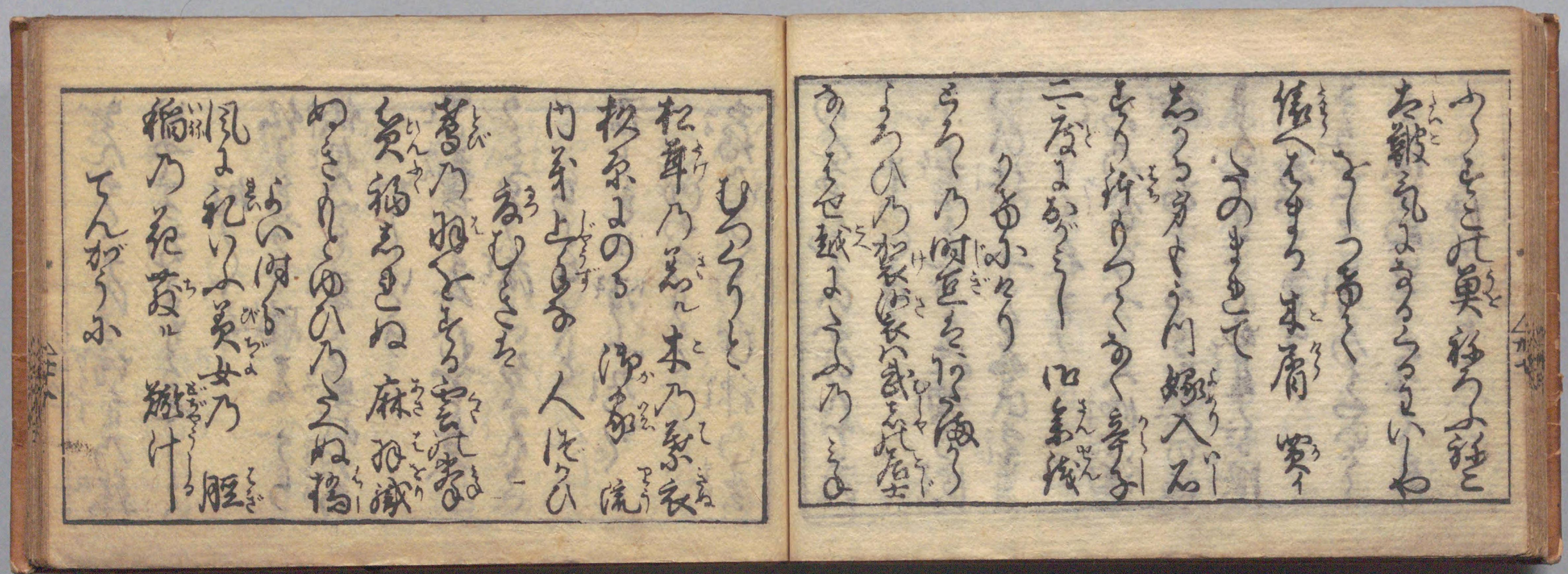
国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

世ゞ世乃はな　琴乃瓜
の文紙のこゝろ　海
たゝんよ
法師をゝるをとゝぎす
石硯屋で乃　白粉づを
畑うつやうな法師　鞭
えとつをて
とちらかゝ傳る異元賣
竹で切る　おぢりない
わゝらの
女よりるちゝ
あで年とる丹波　親孫

わんなもいふびんがる
わついす
下まをまんぢうれ類の皮
いひ仕まふやゝ宝サ
ほれう
乃倉ふ　大師蒲
部よかゝれゝ下の酒
りんをいでくかぶ根
ぎやまます
さうとを耳乃まやぐ
もう酒とぬいでくぐる
うはりそう

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60
ガラス使用



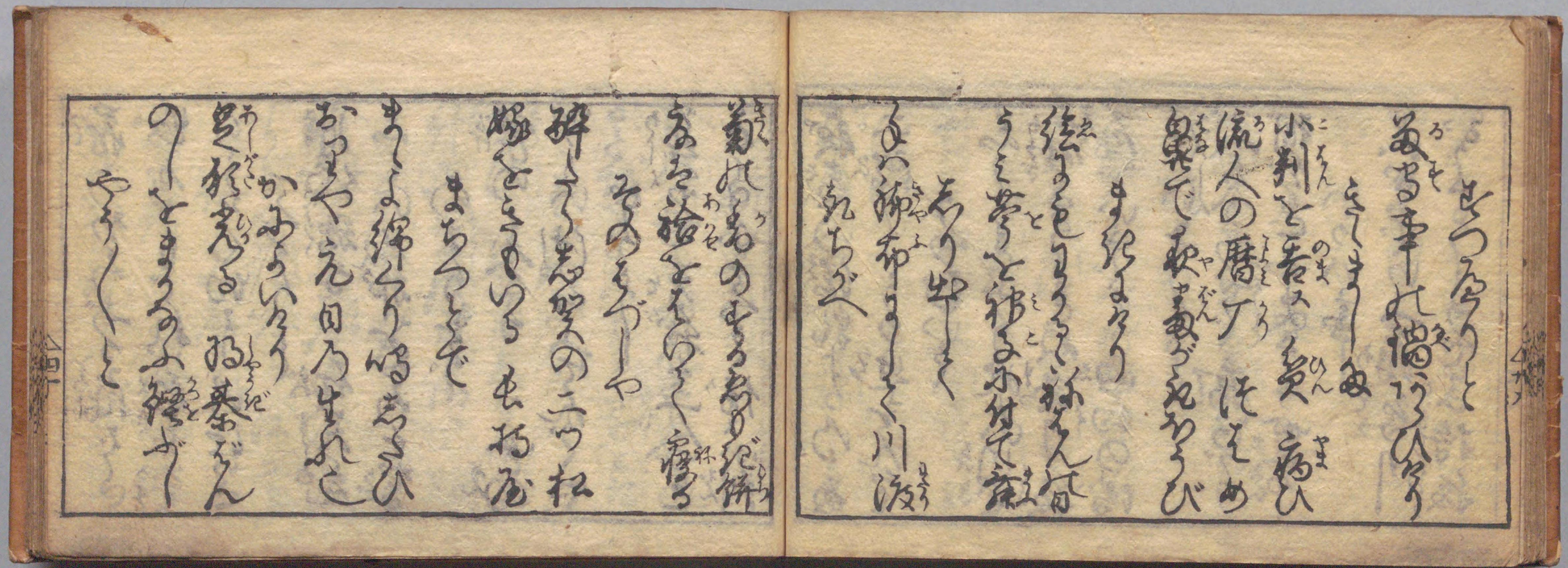
国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

ぎんぞくさいる坊主乃絵
いつぐあるようなやうく
附く
仏まつる胸さん うら
伏見へもまる菓子屋
おしいの
百姓ようづむとこ
くこのり蔵さぞうんぞ
ちくとく
ようどもに呼ん尼ぜ
ゆくりと
寄乃ようむ神乃雲

秋毒乃酒乳まる乃面
二階くろ過きんら
うつむいく
おくまとづれ六月義
寄るさまの変り板
屋をいでく西の湯
あんじそくと
人参かせで病ひで
頭ぢまぬ女さう西瓜
いうい事
夏里でいく寄乃川
なくとくめせる持板

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60
ガラス使用



国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

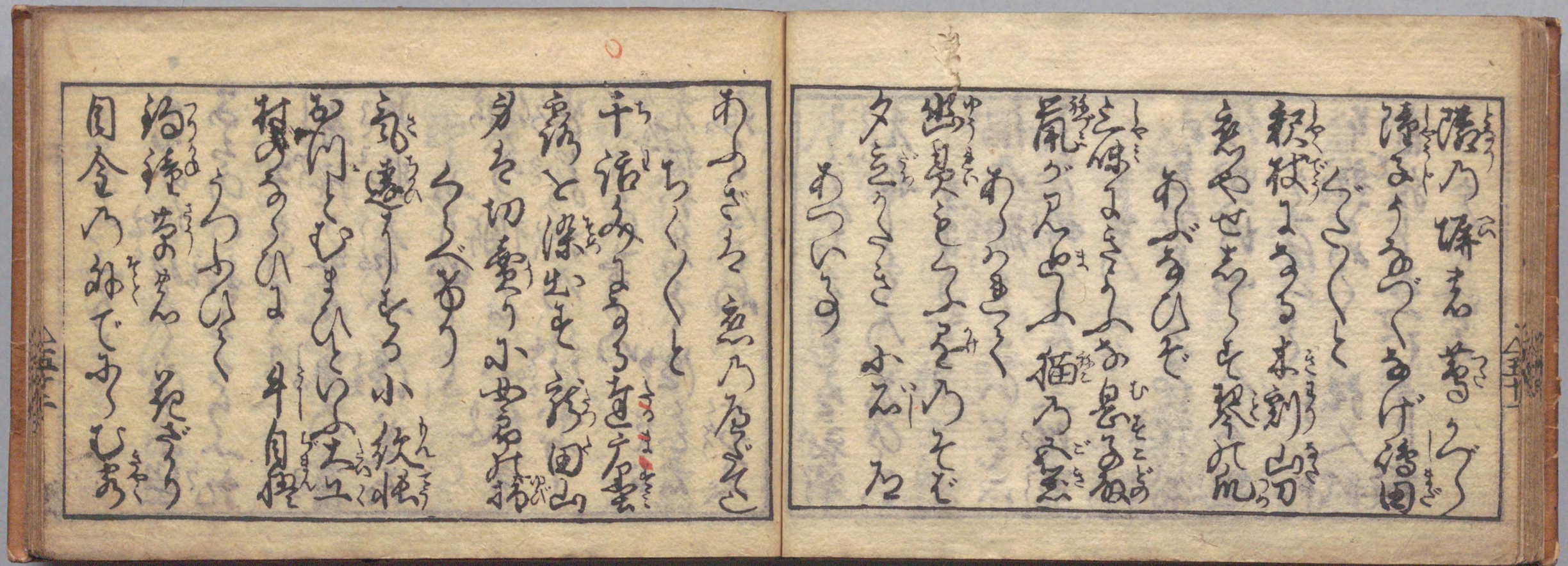
ガラス使用

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

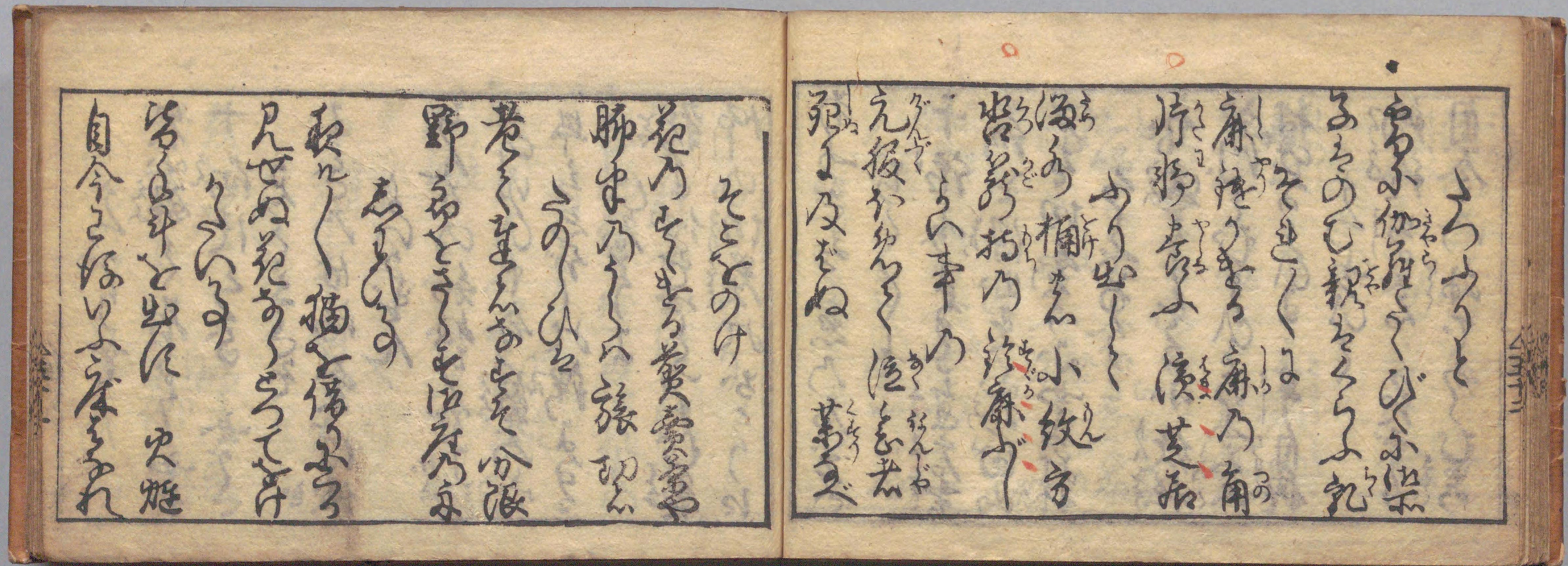
うつまふくり
世を捨て　馬乃鞭
麻黄ふくろ　やこうの人
竹乃根ゐを　いねなを
かどがわる
まぎ人中とはねる
山形ありふ出ん　水鼠
ふくろう
一つ巴を　蛍燭
竹乃ふのふ　釈迦頭
むしやうと
産輝乃ふ面ぬうさ　行灯

ちんぢをを　衣笠
元板しく乃　九びい
ちりもり
猫乃　鼠　さいどぎい
下戸　酔て乃る二階　裏
ちを乃　日を
文　気乃を乃る　紀伊国
行ゐ　へ　やしく人　ちを　鼠
うつ面つく
や　鮮　とめく　弦人　形
自　紙　ちをじ　ちをじ　書
ちりもり



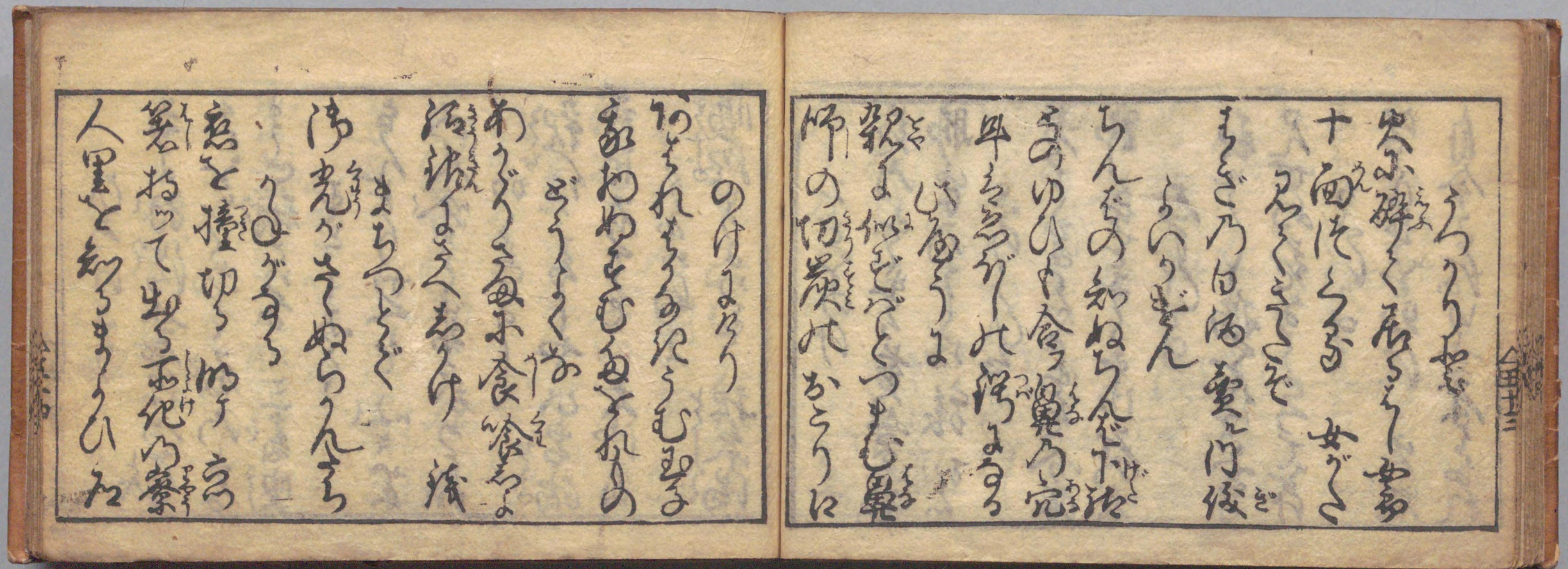
国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用



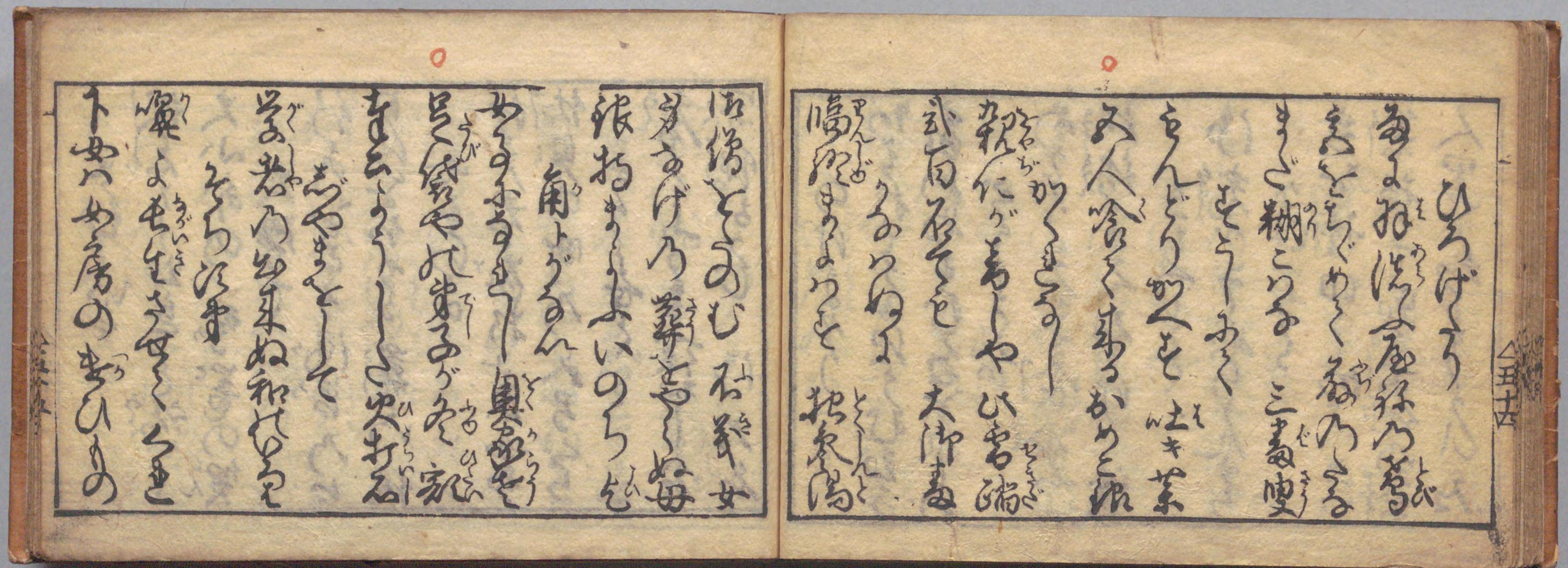
国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用



国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

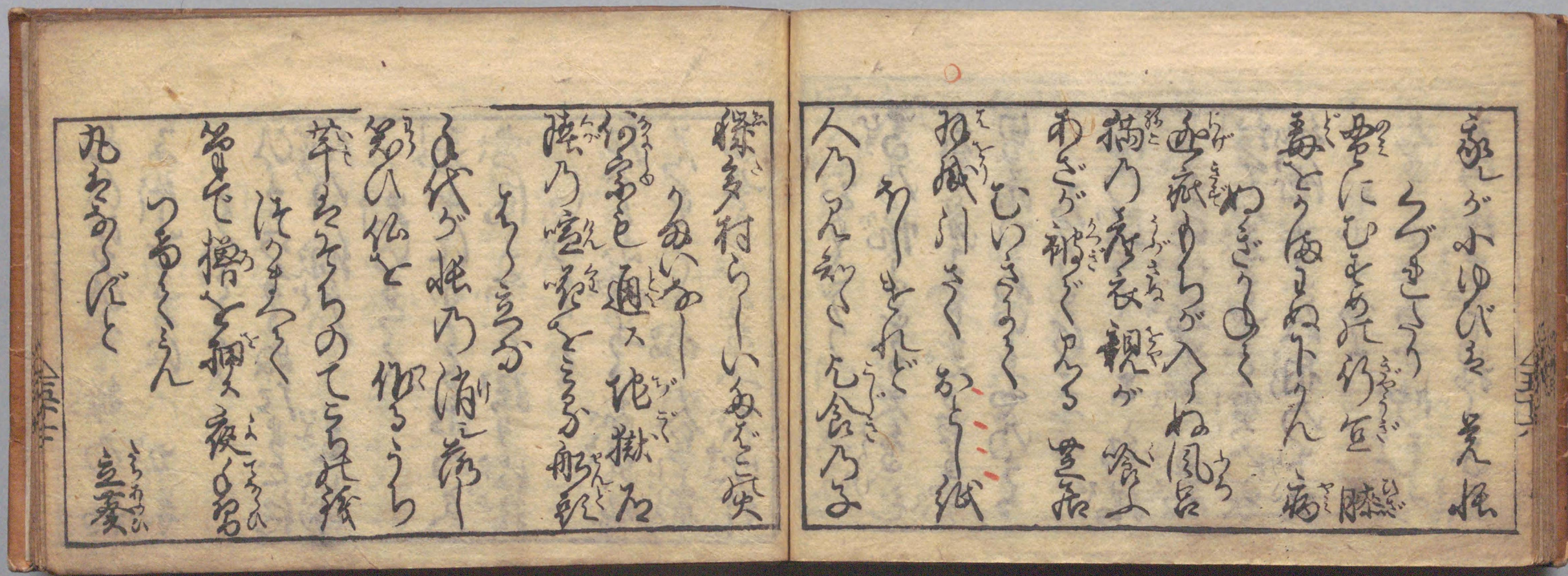


国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

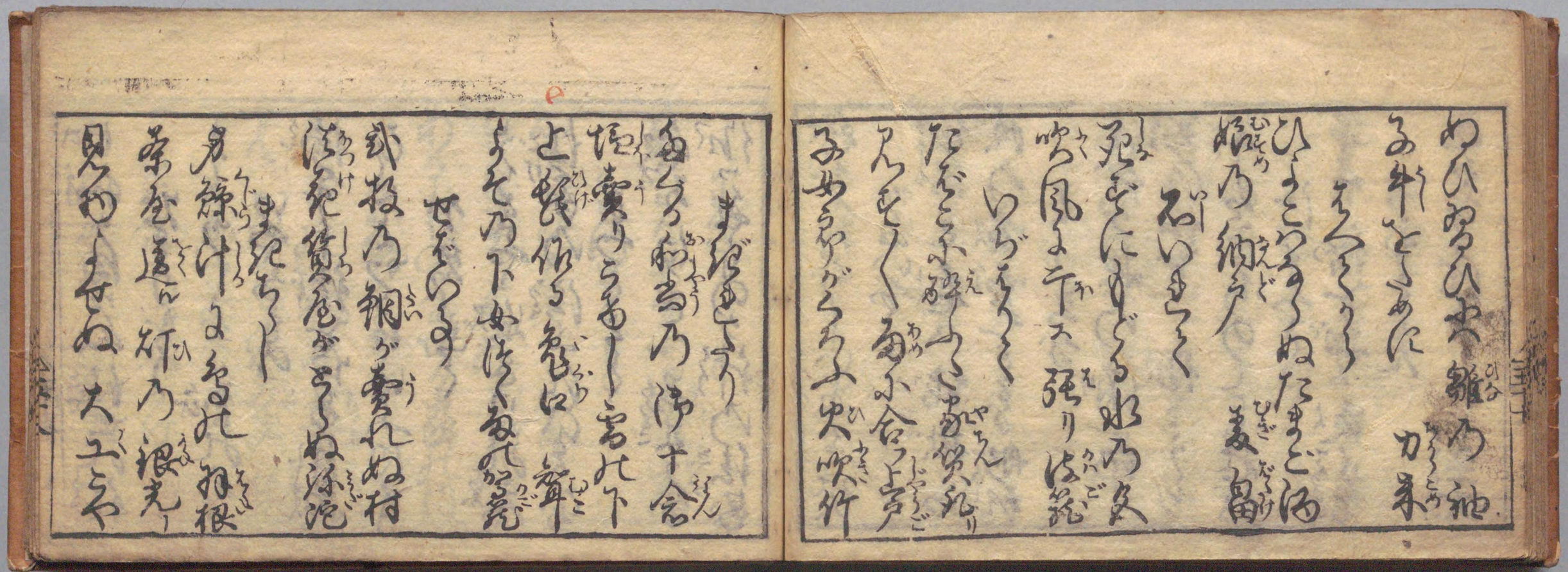
さもしいを
仮名ゝ出さつと祝ふ
大小の　かるの竜の賀
大増て
行あををゝ風呂の口
見せをわめる　幕の仕
やをいの
江戸岩亀れる京事
伏見の町の人ぐら
ゝゝ
唐ぐゝ山ゝ仕おし会
冥加おむ　浮名

ゝ
百の帆よをる大竜宅
家が身をを見る古の賞
男おつゝぬいしやの
ゝゝ
海の浜ゝ　出　紀藩
乃戸の伊勢て当り見物
仕て宅をせぐ笑の衣
紀藩ゝさね相の下ゝ
わどくのよ
ゝをてさ命が例を
その汗竜で神ゝ家



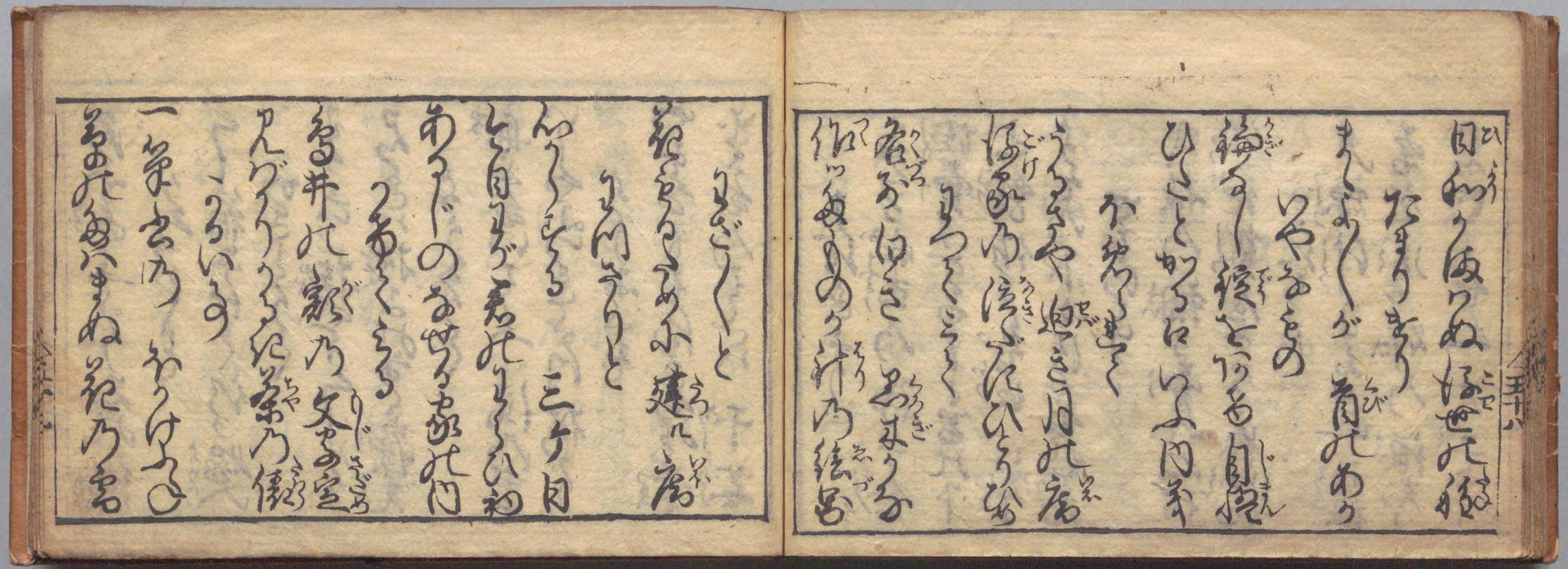
国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用



国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

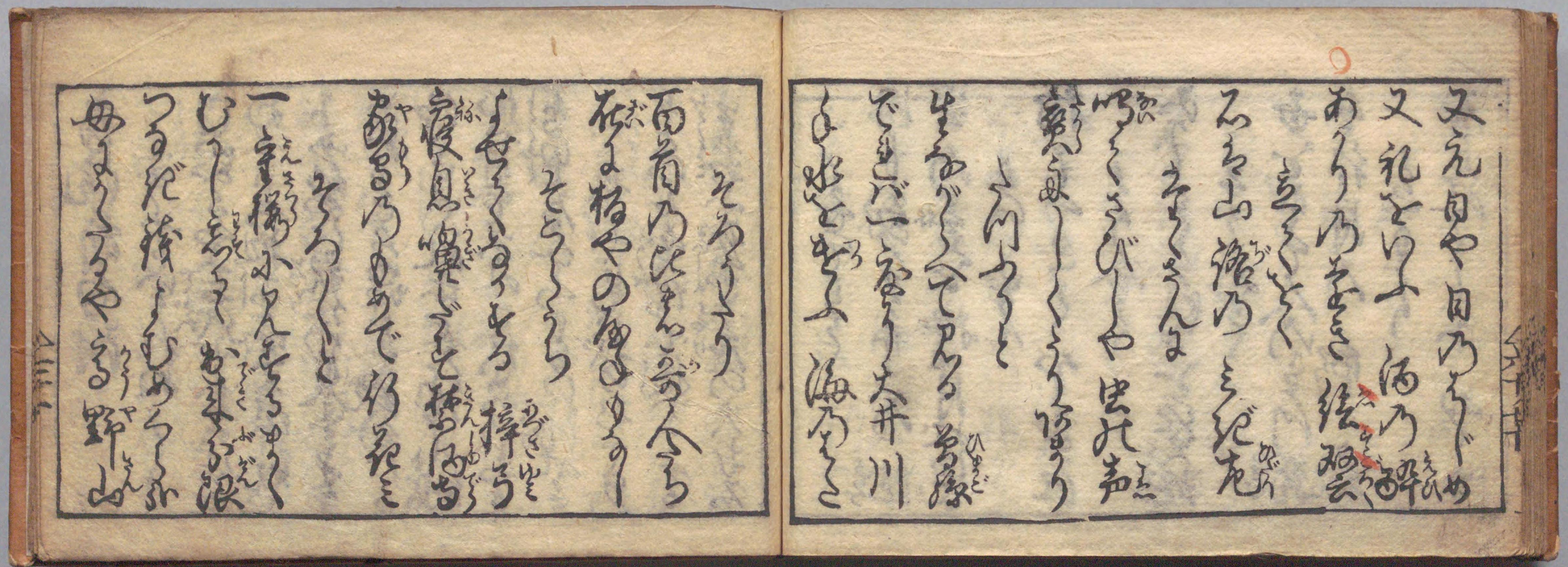
ガラス使用



国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]



国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

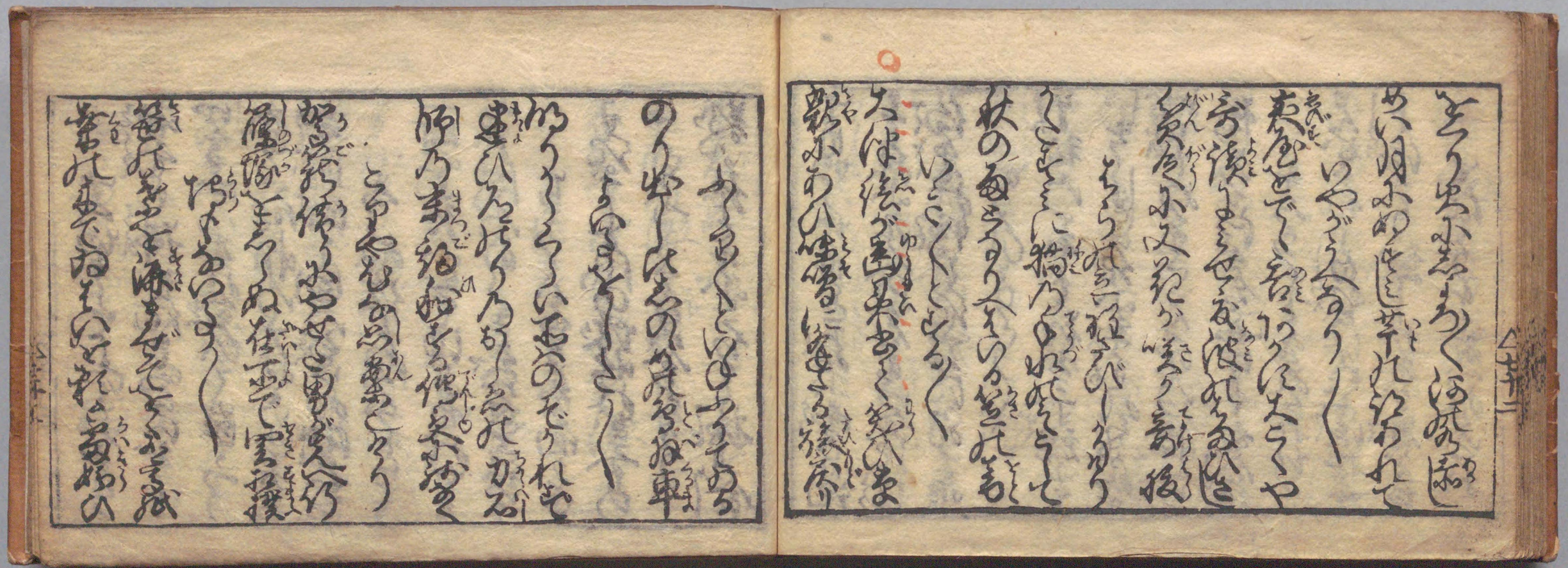
西流前句附

[illegible]

門[illegible]

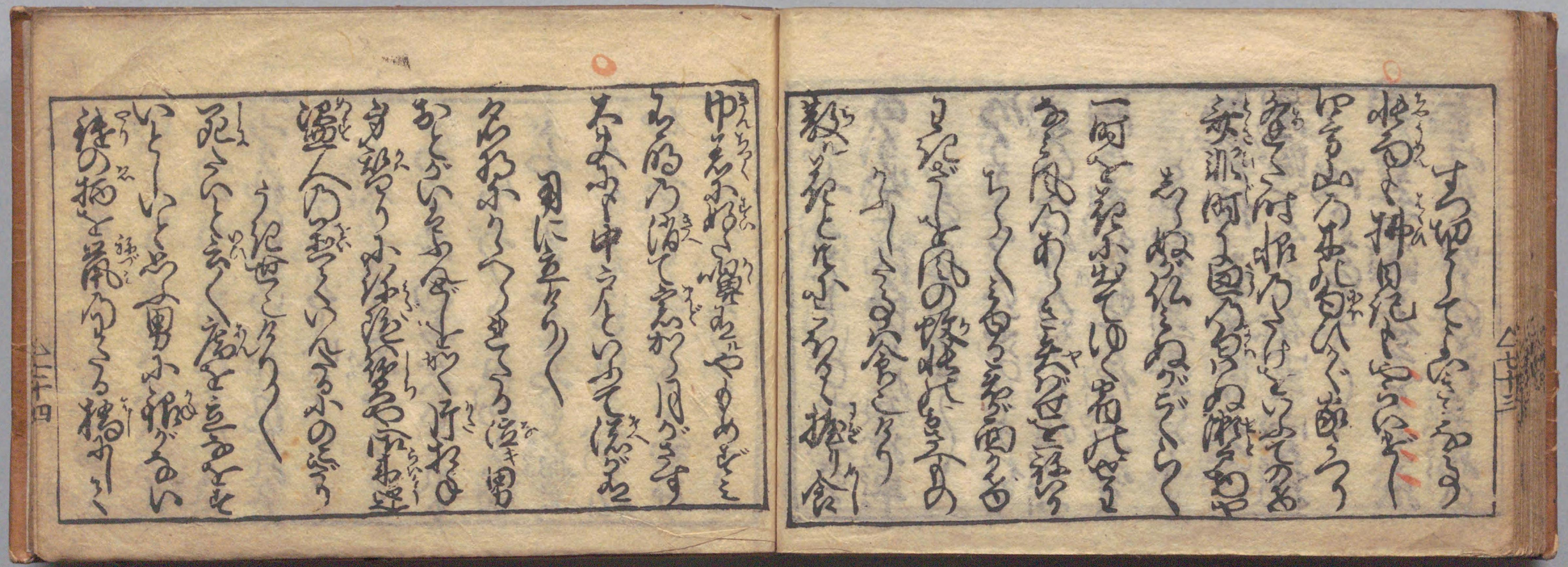
[illegible]

[illegible]



国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

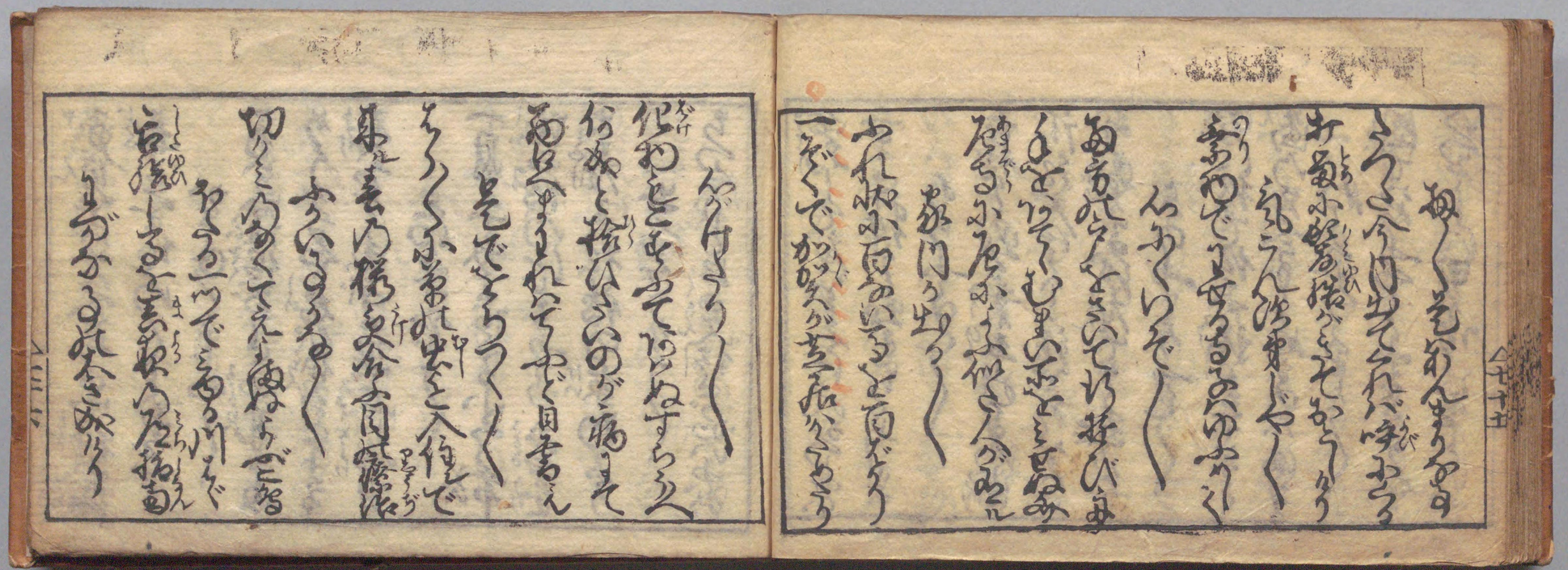
ガラス使用



国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60
ガラス使用

琴箱かりつめて玉ぶすのごと
のべたてて吉野なむいふえん
ちらちらとゆきとみるまで梅
ゆり神の花がいて花はなれかご
さてさらさらいそしく
ものすべしとて愛しよ事
ちりやとそわかがかなれも
わらしくと面白の業
ぶやとのくぐさやと獄火
いろさこれりおりさ業礼
かだのひとんでつるのぐ初げ
さてさらばつしく

男ゆして屋とまつげれもつと
二ゆこ行ゆ出をちくりまし
わらしくと
吉野ゆ出る業年れるの物
活記と仕ゆ紙と行なぐ
乳遊ぶ式花でゆ
ちのつをもく
実に行て仕ふ掘とたてくく
酒ゆ人ゆぬものハ酒ゆ
わらとゆとく
関でゆつゆさくれど
いそこに男がゆなといや



国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

そのあいすり
先度り明井一つ小勝くん今の
み月毎ゞ出へとつる坂の下
世の中へ新粉屋へ清水小間
せいくくくく
きゞとるゞ西へ行くゞる
ちりもの奥小ぶとゞ名田付
新合しくすり
ゆとと市女湯みゝ男山
丸岩くかとゞ湯小撫茶
竹のる丸ゞ小尾丸行陽
丸ゞゞのすく

蓋張小決徒と信る脳乃と
新のゞきゞ日く紙ゞ奉
ゞるくゞとりやを井梅
わゞゞひくくく
三ゞ大江丸とけ三ゞ
一セイと祝ゞくゞゞ西
傾城小新浪しゞ海とゞ色
りるゞをいゞ
孫丸小接種丸ゞ生れゞ
ゞ接とゞるゞ何ゞで新ゞ
門美柳ゞ名刀小味ゞ
海ゞくくと書ゞてゞ行

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

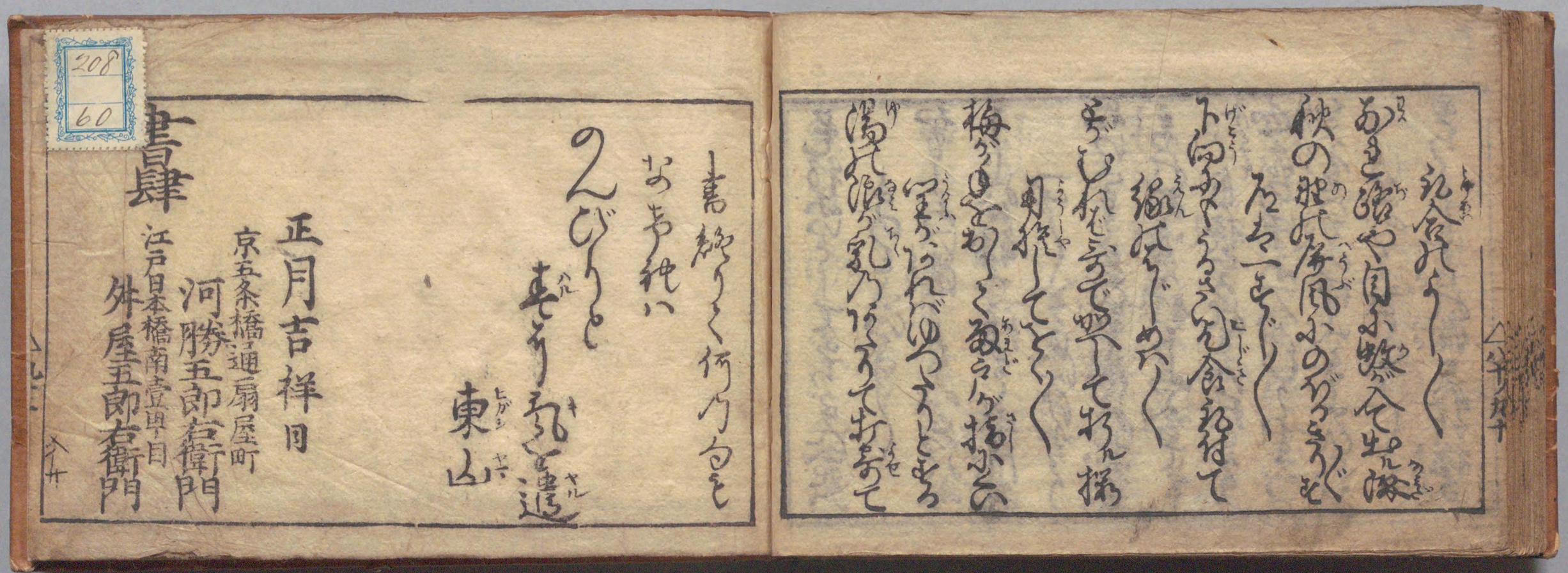
ガラス使用

[illegible]
作り花入乃行燈と呼ぶ
[illegible]
[illegible]家紋捨ぶりにて[illegible]
[illegible]乃ちとそ[illegible]
[illegible]
[illegible]

毎日ものを
入相をんの金をちうぼう
ものをも
酒の元始乃教がねばてゝ
行ゞやや〻ものゝやとて食し
ものゝ
ものゝ
天竺にて和で仕舞ものゝ紫
それハ笑へぬ
ものゝ郭ものゝ
ものゝ
ものゝて行ものゝ時ものゝ
ものゝ
ものゝ月ものゝものゝ

ものゝ
ものゝ
ものゝ

208
60



国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

208
60

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用

国立国会図書館　俳諧いかりつな 208-60

ガラス使用